

渡月橋

別館雲林相映出、門南修路有河橋、上承紫宸長拱宿、下送蒼海永朝潮、

〔書言字考節用集乾一坤〕渡月橋城州葛野郡大井川橋名

〔山城名勝志十葛野郡〕橋御幸橋、渡月橋、法輪寺、皆稱大井川橋乎

〔都名所圖會四〕渡月橋は大井川にありて、法輪寺へ渡る橋なり、一名は御幸橋、法輪寺橋ともいふ、

〔名所方角抄山城〕京邊土名所 西分

大井川 龜の尾と嵐山との間をながる、ほどは西よりひがしへ流出て、りんせん寺前より、梅

津へは南へながれたり、臨川寺と天龍寺との間に、渡月橋と云橋有、天龍寺は龜の尾の替、かの橋

の南嵐山のふもとに、法輪寺有之、

〔雍州府志九名跡〕渡月橋

是則同寺十景之隨一也、古出自天龍寺山門前、西横大井川、到嵐山麓、今按舊地圖、三軒茶屋之南、今

所赴法輪寺之橋北、竹林所有之前也、俗誤臨川寺門前、所臨大井川之石壁臺、是謂渡月橋之所、有也、

〔橘窓自語下〕嗟峨大井川の橋を渡月橋といへども、古名は法輪寺橋といひて、ふるくより有る橋

也、又東梅津よりかみ野むらにわたすはしを上野橋といへり、この橋は元祿八九年の比にはじ

めてかけたり、それまでは船わたしにて有けり、○中略

東寺に所傳の應永廿六年七月、寺領を掠申につきての圖をみるに、嗟峨渡月橋を法輪寺橋とし、

一ノ井堤法輪寺橋の下にあり、

〔源平盛衰記三十九〕時頼横笛事

横笛ハ泣々都へ歸ケルガツクト、物ヲ案ジツ、如何ナル瀧口○齋藤時頼入道ハ悲キ中ヲ思切、カク

心ヅヨク世ヲ背ジ、如何ナル我ナレバ蛇ノ貝ノ風情ゾ、難面クナガラヘテ由ナキ物ヲ思フベキ

ゾト思ケレバ、桂川ノ水上、大井川ノ早瀬、御幸ノ橋ノ本ニ行潛タリケル、朽葉色ノ衣ヲバ柳ノ朶